

「とっどりの評判記」

第10話

なんでも

鉄道の思い出



やまびこ博士

こだまちゃん



山陰線の開通を祝う人々（鳥取駅前：明治45年）

こだまちゃん：今日は遠くに出張していたやまびこ博士を迎えに、JR鳥取駅にやってきました。

やまびこ博士：おお、出迎えありがとうございます。山陰線の旅は、なかなか快適だったよ。

こだまちゃん：わざわざ遠回りして来たの？今は「智頭線」が姫路の方につながっていて、上り方面からはそっちの方が便利なのよ。

やまびこ博士：いくら最近のことより昔のことにくわしい私でも、そのくらいのことは知っているよ。久しぶりに通ってみたかったんだ。

こだまちゃん：何か特別な思い出でもあるの？

やまびこ博士：ああ、たくさん思い出があるね…。

こだまちゃん：山陰線って、いつできたものなの？

やまびこ博士：計画は明治の半ば頃からあったけれど、工事の延期や中止が繰り返されたため、開通したのは明治45年（1912年）のことなんだよ。

こだまちゃん：それにまつわる思い出って…？

やまびこ博士：明治時代の山陰地方は、山陽地方や関東地方と比べて、政府からは冷遇されていた。鉄道についても同じで、後回しにされていたんだ。そこで当時の鳥取の人々は必死になって政府とかけあい、やっとの思いで工事にこぎ着けた。市長も務めた田中

まさる政春という人が明治28年（1895年）に政府に提出した意見書など、人々の山陰線を待ち望む強い思いは、たくさんの資料となって残されている。

こだまちゃん：ただ待っているだけじゃ駄目だったのね。

やまびこ博士：しかも、山陰線の工事は、険しい地形などのために、他の地域と比べて、とても大変なものだった。今も残るたくさんのトンネルや鉄橋などから、当時の人々の苦勞を知ることができる。

こだまちゃん：でも最近では、特に上り方面の利用者は昔より減ってきたみたいね。

やまびこ博士：実は、当時から、山陰線よりも現在の智頭線にあたる山陽連絡線の方が、利用者は多いだろうと考えられていた。しかし当時の人々は、将来中国大陆との関係がより深くなったときに、山陰側が「表玄関」になれるように、と考えて、山陰線の方を選択したんだ。また、その当時日本にも軍隊があって、その移動ルートとしての要求もあった。

こだまちゃん：ふうん、そうなんだ。でも、その頃やまびこ博士はまだ生まれていませんよね。

やまびこ博士：こういう思い出は、時代を超えて伝わるものなのさ。ほら、今、こだまちゃんにも伝わただろう？

【佐々木孝文（鳥取市歴史博物館学芸員）】